

# 『健苗移植で初期生育を確保しよう!』

## ～高品質安定生産に向けた稲づくり～

### 1 育苗後半(緑化終了後)の管理のポイント ～温度管理を徹底しよう～

緑化期～硬化初めは、苗ヤケ等の育苗障害が起きやすい時期です。  
日照がある日は、被覆資材内及びハウス内の温度が急激に上がるので、被覆資材の除去やハウスの換気を十分に行いましょう。

#### 硬化

##### 【稚苗ハウス育苗の場合】

- 第1葉の葉鞘が、稚苗育苗は3.5～4.0cm程度、中苗育苗では2.5～3.0cm程度になったら、被覆資材を完全に除去します。
- 外気にならすため、日中はハウスを開放する。
- 過湿や温度低下によるマット形成不良を防ぐため、灌水は硬化前半には1日1回程度、後半は乾燥の具合を見ながら1日2回灌水を行う。
- 好天時にはハウス内が高温になるので、苗ヤケや徒長防止のための換気を行う。
- 移植の1週間前からは夜間もハウスを開放する。ただし、ムレ苗を防ぐため低温時はハウスを閉め、8℃以下にしないよう注意する。
- 移植後の活着を良くするため、移植前4～5日頃に窒素成分1箱当たり約1～2gを追肥(弁当肥)を行う。

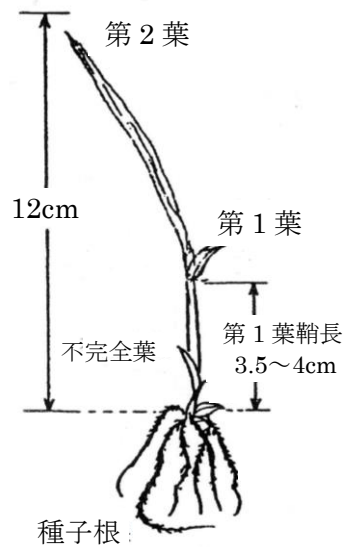


図1 理想的な健苗(稚苗)

#### 田植

##### 露地プール育苗の注意点

- 緑化終了後(葉齢1～1.2葉期頃)から灌水を開始する。
- 最初は苗箱の床土面まで灌水し、水深が浅いところで箱底から1cm以下になったら、苗丈の半分くらいまで灌水する。
- 霜注意報等、異常低温が予想される時は、速やかに床土より上まで灌水する。
- 降雨後は、被覆資材の上に溜まった余分な水は排除する。
- 育苗箱を軽くするため移植の2～4日前に落水する。

##### 【中苗育苗の場合】

- トンネル折衷様式の場合、裾換気は1.5葉期頃から開始する。高温時には被覆を除去、夜間は保温資材を覆って保温する。
- 二重平張り様式の場合、1～1.5葉期に有孔ポリを除去し、夜間や低温時に被覆する。
- 降霜(低温)・強風時には灌水して苗を保護する。
- 3葉期は不織布を除去し、苗の硬化に努める。
- 田植え4～5日前に追肥(弁当肥)を実施する。苗が黄化してからの追肥は効果がないので葉色に注意する。
- 苗質は育苗前期の管理に左右されるところが大きいので、第1葉鞘長を抑え、第2・3葉の伸長を短くする。

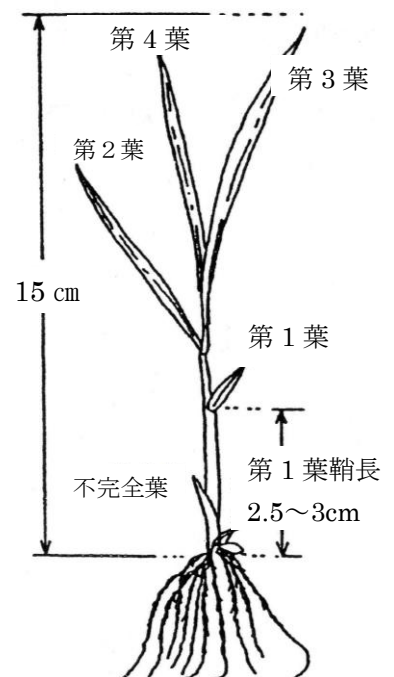
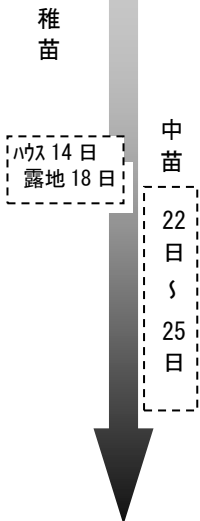


図2 理想的な健苗(中苗)

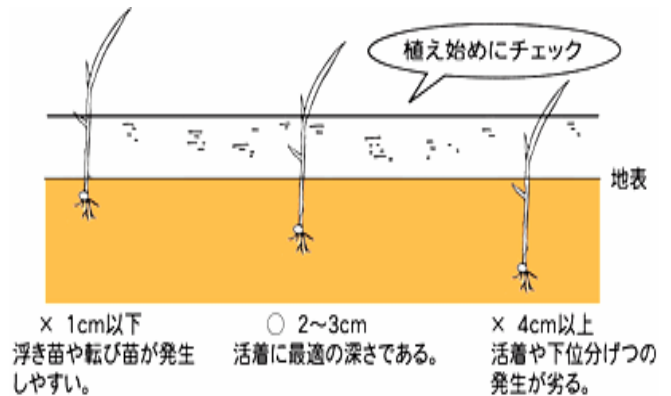


## 2 作土深の確保

- 根域を広げ、十分に養分を吸収し後期栄養を維持するために、**作土深15cm**を確保する。
- ポイント・ 耕うん前に作土深を確認する。
  - ・ 一度に深くして下層の不良土壌が作土層に多く混入すると、生育不良を起こす可能性があるため、作土深については**毎年1～2cmずつ**深くする。

## 3 適期移植と移植時の留意点

- (1) コシヒカリBLは5月10日以降の好天日に移植を行う。ただし、つきあかりはできるだけ早植え、五百万石・こしいぶきなどは5月10日頃までに植え、早めに生育量を確保する。
- (2) 水不足が心配される場合には、心配なほ場を優先して先に田植えを行う。
- (3) 中山間地では、移植が5月末以降になると穂数が十分確保ができず、収量が低下するため、早めの移植が望ましい。  
また、疎植を避け、坪当たり60株以上の栽植密度で移植する。
- (4) 移植作業の良否は、活着・初期生育に影響を及ぼすので、下記事項に留意する。
  - ①植込苗数は1株当たり3～4本とし、過繁茂や細莖化を防止
  - ②適正植付深度（2～3cm）であるか確認
  - ③田植機の移植速度が高速になるほど浮き苗や転び苗等が発生しやすくなるので、適正速度で移植作業を実施する。



## 4 移植後の水管理

- (1) 活着するまでは3～4cmのやや深水とし、保温的水管理で低温や強風による植傷みを回避する。
- (2) 活着後は2～3cmの浅水管理とし、水温の上昇を図り、分けつの早期発生を促す。
- (3) ワキの発生が多い（水田に足を踏み込むと盛んに気泡が発生する）場合は、夜間落水を行い、根の健全化を図る。

## 5 除草剤使用の留意点

- (1) 代かきから移植までの期間が長い場合は、移植前に初期剤を使用する。  
ただし、散布は移植前7日までに終了する。
- (2) 除草効果を高めるため、散布後は水深を十分確保する。田面が露出していると除草効果が低下する。ただし、処理層を維持するため2日程度であれば田面が出て入水はしない。  
また、散布後7日間は止水し、落水やかけ流しは絶対に行わない。
- (3) 散布時の留意点
  - ①植傷みにより活着が遅れている場合は、イネの生育回復を待ってから散布する。
  - ②異常低温又は異常高温時や強風時は、薬害の発生や飛散の恐れがあるので除草剤の散布は行わない。
  - ③散布前に必ず使用上の注意事項をよく読んでから散布する。

※次回は「中干し・溝切り」についてお知らせします（6月上旬予定）